

第2期堺文化芸術推進計画の目標の達成度、
効果等に対する検証・評価について

答申書

(令和3～令和7年度〈5カ年〉に実施する評価の2年目)

令和5年3月

堺市文化芸術審議会

はじめに

堺市における文化芸術振興の基本理念などを定めた「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」（以下「条例」という。）に基づき策定した「第2期堺文化芸術推進計画」（以下「第2期計画」という。）を踏まえ、令和4年5月27日、同計画の目標の達成度、効果等に対する検証・評価について、諮問を受けた。

第2期計画では、前期計画の結果やその後の社会情勢の変化から生じた課題に対応するため、新たに、「重点的方向性1：文化芸術とともに生きる」、「重点的方向性2：文化芸術で子どもたちを育てる」、「重点的方向性3：多くの人に魅力を伝える」の3つの重点的方向性を設定している。同計画の評価に当たっては、各重点的方向性につき1～3事業を選定し、当該事業の実施主体へのヒアリングや現場の視察等を通して、同計画の骨子である重点的方向性について有効な施策が実施できているかの検証・評価を行うものとする。

評価の2年目である令和4年度において、堺市文化芸術審議会では、諮問に基づき、以下のとおり、各重点的方向性の進捗確認に最も効果的と判断される視察事業を選定した。

- 重点的方向性1：文化芸術とともに生きる（文化芸術振興事業（東文化会館）、指定管理者等の企画担当者等に向けた社会包摂型のワークショップ実践研修）
- 重点的方向性2：文化芸術で子どもたちを育てる（さかいミーツアート、アートスタートプログラム、文化芸術振興事業（フェニーチェ堺））
- 重点的方向性3：多くの人に魅力を伝える（さかい利品の杜管理運営事業）

重点的方向性1、2に係る事業としては堺市の文化芸術の創造発展を支える事業を実施する推進母体である公益財団法人堺市文化振興財団が、アートマネジメントに関する専門性やネットワークなどを活かし芸術家や堺アーツカウンシルといった様々な主体と連携しながら、事業を実施した。重点的方向性3に係る事業としては指定管理者（SAKAI 縁プロジェクト）、文化財課、堺市博物館が主体となり、事業を実施した。

調査報告について討議を行い、次のとおり結論を得たので、堺市長に答申するものである。

本答申の趣旨に沿って、市は第2期計画の目標達成に向けて、引き続き着実かつ効果的な事業及び施策の推進を図るとともに、必要に応じて、事業の実施主体に対する指導等の措置を講じるよう要望する。

会長	中川 幾郎
会長代理	藤野 一夫
委員	柿本 茂昭
	さいとう しのぶ
	菅野 陽子
	田辺 竹雲齋
	永島 茜
	坂東 亜矢子
	弘本 由香里

第2期堺文化芸術推進計画

基本目標 ■自由で心豊かな市民生活の実現
 ■都市魅力の創造

基本目標の実現へ

基本的施策										
市民文化					共通			都市文化		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
環境文化の芸術活動を行う	文化芸術活動の環境を整備	文化芸術活動の充実	学校教育における文化芸術の育成	将来の文化芸術を支える人材の育成	文化施設の活用	多様な分野との連携	歴史文化資源の継承	魅力的なまちの景観	国際的な文化芸術の交流	経済活動との連携
条例第9条	条例第10条	条例第11条	条例第12条	条例第13条	条例第17条	条例第14条	条例第15条	条例第16条	条例第18条	条例第19条

<p style="text-align: center;">重点的方向性1</p> <p style="text-align: center;">文化芸術と ともに生きる</p>	<p>○重点的施策1-1：文化芸術を通じた社会的課題の解決</p> <p>○重点的施策1-2：すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実</p> <p>○重点的施策1-3：市民の文化芸術活動の機会の提供</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><具体的取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実 ・「堺アーツカウンシル」の創設による施策の推進 ・地域文化会館の地域における文化芸術拠点としての機能強化 ・コミュニティのつながりによる地域活性化の実現 </div>
<p style="text-align: center;">重点的方向性2</p> <p style="text-align: center;">文化芸術で 子どもたちを育てる</p>	<p>○重点的施策2-1：未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供</p> <p>○重点的施策2-2：子どもたちの育成に寄与する芸術家の育成</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><具体的取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内学校園での文化芸術鑑賞、ワークショップ等の実施 ・意欲のある子どもが更に興味を深めることができる活動の場の提供 ・子どもと芸術をつなぐ人材の育成 ・行政、芸術家と子育て機関、学校等との有機的な連携 </div>
<p style="text-align: center;">重点的方向性3</p> <p style="text-align: center;">多くの人に 魅力を伝える</p>	<p>○重点的施策3-1：堺の文化資源を通じた市民意識の醸成</p> <p>○重点的施策3-2：市外、国外の人々への堺の文化資源の魅力発信</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><具体的取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化資源を活用した市民意識醸成、情報発信 ・地域の伝統文化や文化財を活用した都市の活性化 ・未来の歴史文化資源の発掘、育成 ・フェニーチェ堺による都市魅力の発信 </div>

各重点的方向性に係る視察及び評価について

■重点的方向性 1 文化芸術とともに生きる

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
1	文化芸術とともに生きる	文化施設*1利用者数	549,531 人／年	1,500,000 人／年
		地域文化会館における地域マネジメント機能の構築	—	機能構築
		社会包摂型事業の新規実施	—	事業実施

※1 フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）、堺市立文化館、堺市立梅文化会館、堺市立西文化会館、堺市立東文化会館、堺市立美原文化会館、堺市立中文化会館

評価対象	文化芸術振興事業（東文化会館）
実施主体	指定管理者（公益財団法人堺市文化振興財団）
事業概要	市民に対する質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供及び市民文化活動の場の提供を目的として、各文化会館において施設の管理運営及び文化芸術振興事業を行う。
調査概要	日程：令和4年10月30日（日） 内容：「第4回北野田エンターテインメントフェスティバル」の視察 場所：東文化会館
委員からの評価	<p><事業の評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 内容がとても充実し、一日楽しめるイベントである。年齢層も幅広く、家族一同で参加できる。事業としても、実行委員会が設けられ、周辺施設と地元アーティスト、障害者作業所等、多くの地域関係者が集まって作り上げているのがよい。1回目から4回目へと回数を重ねながら、よりよくしていく工夫がされている。今後、さらに東側商店街を含められるよう、東側の参加者を募る計画もあり、期待ができる。また、費用面でも協賛企業も募り、参加者からの参加費用は抑えられており、地域住民が気軽に参加しやすいのも評価できる。 ● 今回、お寺を利用してイベントをしていたが、お寺などを利用することで、自分たちの住む町の文化施設を知ることにも繋がる。イベントに訪れた人が、周遊することにより、地域活性化につながるので、周遊型のイベントを発展させてもらいたい。 ● この事業の評価をするということは、この事業で展開された芸術・アートのエグゼレンシー（芸術としての優秀性・価値）を評価することではなく、この事業の社会性や、社会的課題解決に向けた有効性を評価することである。審議会委員として、堺市の芸術文化政策や事業を評価するに際しては、その点の誤解が絶対にならないようにしたい。当該事業は、「社会的関係資本」としての東区における人びとの人的ネットワークを維持、拡大することに大きく貢献していることを実感した。特に、域内の学校の発表などに際しては、その家族の多数が鑑賞

	<p>に参加しており、児童、生徒に関する文化政策の重要性を示唆している。</p> <p><留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会館入り口がわかりにくいので、駅から誘導する案内や会館入口にも、もう少しわかりやすい案内表示あればいいと思う。今後、より多くの方が来場することを考えると、改善が必要と思う。周辺商業施設に協賛を呼びかければ、もっと盛り上がると思われる。 ● せっかく協力してくれた旭照寺会場での参加が少なかったことが気になった。また、地元企業、事業体の協賛金獲得をさらに拡大していくことをお願いしたい。さらに、審議会から強い要望を出している、事業に関する文化条例、文化基本計画のどれに該当するか、というクレジット記載が印刷されていなかったのが、実に残念であった。各施設、所管に、今後は徹底していただきたい。
事業の重点的 方向性への寄与	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちの発表や周辺住民が発表することにより、お互い刺激され、「私もやってみたい」という生涯学習につながり、住民同士の繋がりも生まれる。「文化芸術とともに生きる」地域のひとつのモデルとして、今後も期待したい。 ● アマチュアの発表の場を、単なるお稽古ごとの披露の場と軽視してはいけない、と実感した。これは、生涯学習事業でもあり、アートにおける教える人、学ぶ人の循環的な関係を形成していく重要な教育事業でもある。そのような位置づけをしたうえで、他の行政区との比較分析をし、それぞれの区ごとの課題分析をし、どのような文化事業の適用、新規開拓が必要かなどの戦略を、指定管理者サイドで明確化していただきたい。

評価対象	指定管理者等の企画担当者等に向けた社会包摂型のワークショップ実践研修
実施主体	堺アーツカウンシル、公益財団法人堺市文化振興財団
事業概要	堺アーツカウンシルのモデル事業として、公益財団法人堺市文化振興財団事業課の協力を得て、本市内の文化施設の企画担当者等を対象としたワークショップ実践研修を実施する。
調査概要	<p>【企画担当者のためのワークショップ実践研修】</p> <p>日程：令和4年8月23日（火）</p> <p>内容：【レクチャー】 ワークショップを“分解”してみよう</p> <p>場所：フェニーチェ堺</p> <p>日程：令和4年9月29日（木）</p> <p>内容：【レクチャー】 地域とつながる方法を知る、ヒアリング、一度やってみよう</p> <p>場所：フェニーチェ堺</p>
委員からの評価	<p><事業の評価について></p> <p>○【レクチャー】 ワークショップを“分解”してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本事業の目的として、①文化施設の企画担当者がワークショップについて学び、その後実際にワークショップを企画運営し、参加者相互にフィードバックしながらお互いを高めあい、今後アーティストと連携してコーディネーターと

して担当できる力を養う。②研修を通して企画担当者がアーティストや他の参加者と交流することで、「文化芸術を通じた社会包摂」とは何かについて理解を深めるという二点が挙げられている。対象はフェニーチェ堺、東、梅、美原、西、中の各文化会館、財団本部事業課の事業企画担当者及び堺市文化課。昨年度に実施していた企画担当者会議を踏まえ、ワークショップとは何かという入門的な座学中心の研修に続き、本年は学び編・体験編・実践編の三部構成、全9回という意欲的研修となっている。見学したのは第2回「ワークショップの体験と分解」。中身の濃い、充実した試みだった。アーツカウンシルのお二人の熱心さはもちろんだが、各参加者は日頃から担当者として問題意識が高いのだろう、とても意欲的・協力的で快い時間だった。全9回が終わってどういう成果が生まれるのか、非常に楽しみだ。これまでにない研修になるのではないかと期待が大きい。

- 自由都市堺文化芸術まちづくり条例のもとで、政策推進を実質的に担う各拠点・組織の企画担当者が、ひとつの空間に集まり、アーツカウンシルや文化振興財団の担当者とともに、社会包摂をテーマにワークショップのプロセスを共有することは、堺市における文化政策の一体性を担保し、ミッションやビジョンの共有はもちろんのこと、課題の捉え方や解決力を高めていくための基盤となるもので、非常に価値ある取組である。

○【レクチャー】地域とつながる方法を知る、ヒアリング、一度やってみよう

- 終始リラックスした雰囲気の中、参加された企画担当者のそれぞれに、発言しやすい場が作られていて、非常に良いと感じた。始まりに前回のおさらいをしっかりと時間をかけて行われたことも次に前へ進むために良い効果をもたらしていた。また、質問を投げかけた際にひとりだけで考えるのではなく、隣の人などと話し合い、確認し合う時間が設けられ、それもよかった。実際にワークショップが行われ、参加した担当者自身が楽しんでいることが伝わってきた。この楽しいという気持ちが現場に戻った際、他の職員に伝える大きな原動力となるため、とても好感が持てた。その後、このワークショップを山に例えて、実際にワークショップを実施する際、ファシリテーターとしての進め方や注意点などが自然と学べるようになっていた。こうしたことは、通常、ワークショップを実施し、何年もかけて体感し、会得していくものだが、事前にわかりやすく解説してもらえれば、失敗することも少なく、やってみようという気持ちにさせてくれるので、非常に良い研修会だと思った。
- 地域文化会館は、地域における文化芸術の拠点として、実際に地域の文化活動を支える最前線となる場であり、それらの事業企画運営を総合的に担うのが現場の職員である。本事業は、事業企画担当者を対象とした実践的内容であり、各施設の企画運営力の向上が期待できる発展性のある事業である。継続的な研修プログラムであることや、グループワークやディスカッションの時間も設けられているため、財団、アーツカウンシル及び各会館間の情報共有、人的交流にも繋がっていると考えられる。
- 実践研修の3回目で、ワークショップの仕組みの復習を参加者同士が話し合い

ながら共有した後、合作俳句を体験。その合作俳句の構成が、ワークショップのどの行程にあたるのかを相談して発表するという分かりやすい内容で、終始和やかな雰囲気の中、進められた。上田假奈代氏が務めたファシリテーターの役割や舵取りの仕方も同時に学べる、ワークショップ事業の実施に役立つ講座である。来年度には各会館でワークショップ事業を行うとのこと。企画担当者を育成するという視点は重要で、様々なイベントの企画運営の参考にもなるプログラムだと感じられた。

- 参加者が体験した合作俳句には、出来上がった俳句を褒め合う時間が設けられていて、互いの自己肯定感を高める作用があるようだ。参加者が楽しみながら実践研修に取り組んでいる様子で、企画担当者の意欲や士気を高める効果もあるように感じられた。企画担当者同士のコミュニケーションも生まれ、将来的に複数の会館が協力して事業を企画できるような繋がりも芽生えている様に思われた。

<留意点>

○【レクチャー】 ワークショップを“分解”してみよう

- ワークショップという概念自体、近年ヨーロッパからもたらされたものであり、まだまだ一般に浸透しているとは言い難い。そのことが、講師による説明段階でもファシリテーター・アクティビティ・アイスブレイクをはじめ外来語の多用につながっていると思われる。前回の振り返りでの参加者の発言にも表れていたが、それが意識の高い受講者にとってもある種のとっつきにくさ、なじみ難さを生んでいるのではないか。広くこの概念の普及のためには、適切な言い換え表現が必要と思う。さらにワークショップの理解はある程度共有されたと思われるが、「文化芸術を通じた社会包摂」とは何かについてはまだ参加者の多くが得心できていないように思えた。今後の研修でより一層理解が深められるように期待したい。
- 今回の参加者は通年の研修を通じて確実にコーディネーターとしての資質が高まると思われ、次年度からの活躍が期待されるが、各館一人ではもったいない。少なくとも、将来的に各文化施設において複数の人材が様々なワークショップの企画運営に参画できる体制になってほしい。
- 現場の状況をふまえ、十分に練り上げられた内容で、次年度の実践まで組み込んだ計画として組み立てられている点でも優れた取組である。それらの成果を発展的に活かしていけるように、研修の修了者をはじめ各館の企画担当者が、アーツカウンシルや文化振興財団の担当者に企画等について相談しやすい仕組みや、継続的に学び合える場などもあるとよいのではないか。
- 事業の対象が広がっていくと、おのずとオーバーワークになる可能性もあり、発展性を担保していくための仕組みの検討も必要になるのではないか。
- アーツカウンシルや文化振興財団がブリッジとなって、各文化会館と地域が連携した社会包摂型事業の相乗的な展開につながっていくことを期待する。

	<p>○【レクチャー】地域とつながる方法を知る、ヒアリング、一度やってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加人数が、各館ひとりずつだったので、複数人で共有した方がよいかと思った。 ● こういった研修会を、ワークショップを開く一般の人たちやこれからやりたいという人にも開き、修了生には何か肩書のようなものをつけて、市が応援し、実際に活動できる場を提供したり、研修生同士の交流の場を設けて、文化芸術の基盤づくりにしてはどうか。 ● 近年ハンドメイドのクリエイター人口が急増している。こういう人をターゲットに研修会を開き、活動してもらうのもよいのではないか。 ● 各会館から1名参加しているが、研修内容を現場に反映させるためには、所属する会館の他職員への働きかけも大切である。今後も定期的に多様な領域の研修を実施することで参加者を増やし、また限定的なオンデマンド配信などを併用することで、内容をより広められると思われる。研修資料や事例なども共有のデータ保管場所などを活用することで、会館間でのアイデア共有や、担当者の異動などが生じても、最低限度の引継ぎが可能となるものと考えられる。フェニーチェ堺は中核的な劇場として、今後は更に主導的役割を果たすことが望まれる。 ● 9名の企画担当者を対象とする贅沢な事業だが、実践研修を受けた参加者は、おそらく何年後かには異動して担当を離れることになるのだろう。今後、数年ごとに同じような実践研修事業を行っていくのか、映像などに記録して次の担当者にノウハウを引き継いでいくのか。次々と変わっていく企画担当者を、その都度育てていく仕組みを考えることが課題だろう。
<p>事業の重点的 方向性への寄与</p>	<p>○【レクチャー】 ワークショップを“分解”してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文化芸術の振興及びその活用を通じて住民の子育て、教育、福祉、健康等さまざまな今日的な社会課題の解決に寄与するために、各文化施設の役割は今後ますます重要になってくるであろう。本研修により、住民に寄り添った各地域会館の一層の活性化が期待され楽しみである。 ● 堺アーツカウンシルの積極的かつ多様な取組には頭が下がる。その充実ぶりには感心しきりである。今後も新鮮な視点から、文化芸術の振興、発展のために様々な試みを希望したい。 ● 重点的方向性「文化芸術とともに生きる」に対して、最も重要な社会包摂の考え方を明確に示し、社会包摂と親和性の高いワークショップを自ら経験することによって、知識やスキルを吸収して終わるのではなく、実感をともなう、暗黙のうちに排除されてきた存在や気づかなかった課題や価値を捉えなおし、企画する力を養うことのできる研修となっている。 <p>○【レクチャー】地域とつながる方法を知る、ヒアリング、一度やってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文化芸術を伝えるのは、やはり人であると思うので、こうした研修会により各館で様々なワークショップが行われれば、大人も子どもも広く様々なことに触れ、出会う機会が増えると思う。また、運営側も自身で企画したことが成功し、参加者に喜ばれると、次につながる意欲となる。小さなワークショップでも常

に触れる機会があれば、文化芸術が身近に感じられ、ハードルが下がる。そのための足掛かりとして、ワークショップとは？という所に始まり、ファシリテーターとしてのスタンスや注意点を正しく学べて非常に良い事業と感じた。

- 地域社会は、子育て・教育・福祉等が複合した生活の場であり、文化芸術もそれらの実情を踏まえつつ、芸術的クオリティを確保したうえで、多様な活動を展開することで、すべての人が文化芸術を享受できる機会につながる。地域文化会館の事業は、地域の文化芸術活動に直結することから、本事業の継続定期的な実施により、事業企画担当者の専門知識やスキルを高めることは、「文化芸術とともに生きる」という重点的方向性に直接アプローチできるだけでなく、より発展性が見込めると考えられる。
- 企画担当者の手腕やアイデアによって、市民がどのような形で文化芸術に触れられるかは、大きく変わってくるように思う。市民が「文化芸術とともに生きる」ために、優れた文化事業を企画運営する担当者の育成は大切であり、急務である。

■重点的方向性2 文化芸術で子どもたちを育てる

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
2	文化芸術で 子どもたちを育てる※2	芸術家の学校への派遣割合 (計画期間における派遣校数/全小中学校数)	44.2%	80%
		事業体験後、児童が文化芸術に興味を持てたと答える割合	75.9%	90%
		事業体験後、学校側が子どもたちに良い影響・変化があったと答える児童の割合	96.2%	90%

※2 文化課所管の事業を主に指標に用いています。事業の推進にあたっては、教育委員会の協力を得て実施しています。

評価対象	さかいミーツアート (小中学生対象アウトリーチ)
実施主体	公益財団法人堺市文化振興財団
事業概要	小・中学校等で多様なアートプログラムを実施することで、次代を担う子どもたちにアートに出会ってもらい、新たな経験を通じて、豊かな心と感性を育むことができる環境づくりを推進する。
調査概要	◇さかいミーツアート (バレエ) 日程：令和4年10月27日(木) 内容：野間バレエ団によるバレエ体験 場所：堺市立はるみ小学校
委員からの評価	<p><事業の評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全体通して非常に文化芸術的な事業であった。一般的に習い事などで経験しない限り、普段バレエというものに触れる機会がないので、子どもたちにとっては、特別な時間であったと思う。初めに衣装を身に着けたバレリーナが実際に目の前で踊ってくれるので、子どもたちは、その美しさに触れ、すぐにバレエという世界に引き込まれていた。そして、子どもたちも動かなくなったところへ、手、足、身体全体の順にリズムを取り、身体を動かす。また、基本的なバレエの姿勢などを学び、その後、コンパクトにまとめられた有名な3種類のバレエの舞台映像を、解説を交え視聴し、普段見ることのない舞台をじっくりと学ぶ。また、担任の先生方のピアノとクラリネットの演奏も子どもたちの心をひきつけたように思う。最後は、先に学んだ、リズムの取り方や新たに教わったステップなどをもとにグループに分かれ先生方のアドバイスのもと、ストーリーを考え、踊りを作り出していく。それぞれグループごとに全く違ったダンスができていて、全体的に男の子が多かったにもかかわらず、しっかり表現できていた。限られた時間内で様々な学びがあり、何よりも子どもたちが飽きることなく終始楽しそうに自主的に身体を動かしていたのが印象的だ。日常生活では触れることのないバレエという芸術に触れ、小学三年生という良いタイミングで知ることができたのではないだろうか。芸術的な学びあり、表現ありの

	<p>非常に充実した内容であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 野間バレエ団のプログラムがしっかりとまとめられていて、進行も臨機応変に対応できていて評価できる内容だった。限られた時間で、バレエの動きの説明から三大バレエの紹介、みんなで踊るところまでを取り入れ、子どもたちが飽きることなく楽しんでた。特によかったのが、担任の先生の演奏でワルツを踊ったこと。自分の担任の先生が演奏したことにより、子どもたちが集中し、心に残る体験となっただろう。生の音楽とバレエとの総合芸術を体験し、バレエ単体とは違った「芸術」のすばらしさを感じた子どももいたのではないだろうか。最後みんなで振付をする時間では、仲間と話し合い、一つの作品をつくりあげていくという達成感にも繋がったと思う。最初は乗り気ではなかった生徒も、最後は自分たちの作品を踊ったことにより、少し表情が変わったように感じた。最後のあいさつの時に、バレエのあいさつを生徒たちが率先してやったことが、この事業の成功を表している。短い時間に、観る・聴く・踊る・創るを体験でき、他者とのコミュニケーションや協働作業など教育においてもよい内容だった。 <p><留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電子機器の不具合くらいかと思う。マイクを3つすべてヘッドセットにして、お互いがハウリングしないよう努めればもっとスムーズにいくと思う。一時マイクが切れ、先生の地声の授業では、後ろの子は聞こえなかったもので、少しポカンとしていた。子どもの場合、ちょっとした時間がその後のまとまりに大きく影響する場合があるので、注意が必要。学校の体育館という場所のWi-Fi環境が整っていなかったり、学校のプロジェクターなどが古いことも多いので、今後もそのあたりを十分に注意した方がよい。 ● 今後、優秀な事業や指導者に称号のような、あるいはマイスターというような表現で堺市として認可し、今後もそういった活動がしやすいような取組や優遇措置が得られるとよいのではと思う。例えば称号の入った認可証や名刺など。 ● 実施していない学校へ、今回の事業内容（可能な範囲で写真や映像など）を積極的に伝えるべきだろう。併せて子どもたちの感想やできればその保護者の子どもたちから聞いた感想なども添えて。 ● 音響などデジタル機器に問題が発生していたので、念入りに打合せが必要。だが、臨機応変に対応できていたので、気にはならなかった。 ● グループごとに発表するとき、せつくなので、もう少し発表内容がわかるようにしてあげてほしい。
<p>事業の重点的方向性への寄与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回の事業ではバレエをほんの少し、知るきっかけを得たというところだろうか。知ると知らないとは全く違うので、非常に良い事業だったが、文化芸術で「育てる」ということまではいかないように思う。「育てる」というところまでいくには、希望する生徒にはこれが入り口となり、もっと学校で学べるような授業などが設けられているべきだろう。また、映像ではなく、実際の舞台を鑑賞できるチャンスを与えるべきかと思う。そして、その後の授業がどうなっているかわからないが、教室へ戻ってから、子どもたち自身がどんな印象を受

	<p>け感想を持ったかと意見を交わし合うことも必要かと思う。また、調べ学習のようなことへも繋がっていくともっとよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文化芸術に触れる場を、十分提供できていた。舞台映像を観て、鑑賞に興味を持つ子もいるだろうし、音楽に興味を持つ子、踊ることに興味を持つ子、作品を作ることに興味を持つ子等バレエを通して、幅広く「文化芸術」を体験できていたと思う。また、「風のように動いてみる」といった想像力や、作品を作るといった創造力を働かせながら、自分の考えを伝えるために仲間とコミュニケーションをとる等、文化芸術の力を存分に発揮できていたと思われる。デジタル化が進む時代、感性が失われつつある中で、芸術に触れる意味の大切さを、今回改めて感じた。
--	---

評価対象	アートスタートプログラム（未就学児対象アウトリーチ）
実施主体	公益財団法人堺市文化振興財団
事業概要	幼稚園、認定こども園、保育園等で多様なアートプログラムを実施することで、次代を担う子どもたちにアートに出会ってもらい、新たな経験を通じて、豊かな心と感性を育むことができる環境構築を推進する。
調査概要	<p>◇アートスタートプログラム（音楽体験プログラム）</p> <p>日程：令和4年9月8日（木）</p> <p>内容：クラリネット、ピアノ、バイオリン、声楽による音楽体験プログラム</p> <p>場所：鳳西こども園</p>
委員からの評価	<p><事業の評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今回参加された4人のアーティスト(ピアノ、声楽、クラリネット、バイオリン)は、全員が子どもたちとの会話を子どもの視線でされており、感心した。これは、昨年度からのアウトリーチ事業での経験による成果ではないかと感じた。 ● 演奏者にとっての発表の機会・演奏のデリバリーに終わらず、子どもたちを育てる音楽の役割や可能性について、事前の準備段階から、堺市文化振興財団の企画担当者を媒介に、こども園の先生方と十分にコミュニケーションをとったうえでプログラムが検討・工夫されており、子どもたちは素直に興味を持って、演奏を体全体で受け止め、集中して楽しんでいた。当事業の趣旨を理解し事業に臨む姿勢を引き出した、マネジメントのあり方を含め、高く評価できる。 <p><留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● まだ始まったばかりで、システム的に特段に改善すべきことを思いつかない。むしろ、今後に向けては、アーティストに支払われる謝礼金の妥当性、合理性が、年々点検されて改訂されていくべきだろう。また、財団側のコーディネーター・システムにかかる労力、負荷や、行政との間の情報交換、コスト負担などが今後の課題となっていくと感じた。 ● 行政内部では安定的に確保しにくい、現場とアートをつなぐ専門職としての「アートコーディネーター」の機能と位置づけが、これから財団内で定着していくようにお願いしたい。とともに、年年歳歳、コーディネーター機能の点検

	<p>と評価を怠らないようにし、なおかつ「アートコーディネーター」が財団内で孤立したりすることがないように、しっかりバックアップするようお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 45分という時間の制約や、3歳～5歳という子どもたちの年齢のため、楽器や曲の説明を増やすことは難しいが、子どもたちの好奇心を刺激し、音楽の不思議に気づくような、小さな一言や仕掛けがもう少し盛り込まれると、いっそう魅力的なプログラムになるのではないかと。子どもたちが反応したポイントに、ヒントがあると思う。 ● 後半の一緒に演奏のコーナーは、子どもたちが受け身の表現（画一的な手拍子など）になるため、子どもたちの能動的な表現や楽しさや発見につながるような工夫があるとよい。 ● 子どもたちに多様な経験をしてほしいという職員の方々の熱意も強く、同事業のニーズは極めて高い。今後より多くの施設、より多くの子どもたちに、同事業を提供していくためには、数少ない財団スタッフでの対応には限界があり、将来的には市民が研修を受けたうえでマネジメントに関わっていくなど、持続的・発展的な運営の仕組みを検討していく必要があるのではないかと。
<p>事業の重点的方向性への寄与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 堺市は、子どもや学童・生徒への芸術供給を重点的方向性としている。今後に向けて、幼稚園・保育所・こども園などの受け入れ側、小学校・中学校の学校現場の職員などとの定期協議の場づくりが求められるはず。その意味では、現場の子どもたちが生き生きとして喜んでくれる、今回のような実践の積み重ねが、その人たちを協議する現場に誘因していく原動力となる、と確信する。 ● 重点的方向性「文化芸術で子どもたちを育てる」に対して、就学前の子どもたちの育ちを支える場、こども園等へのアウトリーチは、子どもたちがアーティストによる芸術表現にダイレクトに触れることができる貴重な機会であり、感受性の高い子どもたちが得る驚きや喜びは、他に替えられない大きな価値があり、子どもたちの心の成長につながる大切な経験になる。

<p>評価対象</p>	<p>文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）</p>
<p>実施主体</p>	<p>指定管理者（公益財団法人堺市文化振興財団）</p>
<p>事業概要</p>	<p>市民に対する質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供及び市民文化活動の場の提供を目的として、各文化会館において施設の管理運営及び文化芸術振興事業を行う。</p>
<p>調査概要</p>	<p>日程：令和4年8月27日（土） 内容：「Dance Power 2022 in フェニーチェ堺」の視察 場所：フェニーチェ堺</p>
<p>委員からの評価</p>	<p><事業の評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部活動を中心として、若い世代のダンスはクオリティが高く、大阪府には全国大会での強豪校が多くある。堺市にはそのうち数校があり、ダンスは次世代の堺を牽引する文化活動となり得る。それらの成果をフェニーチェ堺で、プロの照明や音響などを用いた舞台上で発表することは、かけがえのない表現経験となる。また、出場希望校は全て出場しており、高校間の交流の場にもなっている。

	<p>もとは、市庁舎前でのパフォーマンスであったのが、フェニーチェ堺で実施されることで、対外的な発信にも繋がると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3回目となる今回は、堺市内の高校でダンス部を持つ26校のうち、半数の13校22チームが参加。年々参加校が増えており、全国大会で上位の成績を残す複数の強豪校も演技を披露した。保護者や他校の生徒、一般の方にも客席を無料で開放し、堺市のダンス文化のレベルの高さを認識させる事業になっている。様々なジャンルのダンスが鑑賞できる機会にもなっていて、ダンスに対する興味や関心を喚起し、その発展に寄与する事業でもあると言える。 <p><留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現状では、全ての参加希望校・チーム（13校22チーム）が出場しており、それが望ましくないことは無いが、今後はどのような理念で実施していくのか、推進計画を踏まえて検討する時期にある。併せて発信についても、著作権、著作隣接権等の制約をも考慮しながら、どのような方向をめざすのか、議論していくことが望まれる。 ● 活動内容に干渉する意図はないが、今後は男子にもより多く参加を促すことで、本活動がより多様化するかもしれないと思われた。 ● 参加希望の学校を全て受け入れる形をとっていて、ダンスのレベルにかなりのばらつきがあった感は否めない。今後、参加希望校が増えた場合、上演時間や開催期間を延長して全校を受け入れるフェスティバルとするのか、レベルによって参加校を選別するコンペティション的な場とするのか。その選択が迫られるだろう。堺市のダンス部の高校生たちにとって、「ダンスパワー」の舞台に立つことが、ひとつの目標であり、憧れとなるような存在になればと思う。事業の今後の方向性を決める必要があるだろう。
<p>事業の重点的 方向性への寄与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本事業は、重点的方向性に十分寄与しているものと考えられる。特にダンス活動は、部活動など自発的な活動から発展しており、市民社会に根付いていると考えられる。但し、これらの部活動を文化芸術と位置付けるならば、プロの活動に対する支援などと、差異化が必要となる。堺市なりの芸術支援に対するポリシーを示し、その反響から取り入れるべき事柄を絶えずフィードバックしていくようなあり方（＝固定する部分と変化する部分が組み合わさったような）も可能性として展望できるかもしれない。 ● 環境の整った大きなステージに立てる機会は、生徒たちにとって実に貴重な経験であり、フィナーレで各校の選抜メンバーが、振付師 akane さん（元登美丘高校ダンス部コーチ）の振付によるダンスと一緒に踊ることも大きな刺激になっていると思われる。akane さんにダンスを見てもらい、指導や講評ももらっているとのことで、生徒たちのモチベーションやレベルアップにつながり、ダンスという文化芸術を通して子どもたちの育成に寄与していると考えられる。 ● 本イベントが在阪テレビ局の協力を得ており、報道番組内で後日放送されることも、この事業の付加価値であり、参加した生徒たちの大きな励み、誇りとなっていると思われる。

重点的方向性3 多くの人に魅力を伝える

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
3	多くの人に 魅力を伝える	山口家住宅、清学院、(仮称)堺鉄炮鍛冶屋敷ミュージアム来館者数	5,742人/年※3	30,000人/年
		文化芸術事業の認知度が30%を超える事業数	1	10
		先人顕彰事業の参加者数 (さかい与謝野晶子青春の短歌大会参加者数 及び阪田三吉名人杯将棋大会参加者数)	4,631人/年	10,000人/年

※3 (仮称)堺鉄炮鍛冶屋敷ミュージアム来館者数は2023年開館のため、山口家住宅、清学院の来館者数

※4 阪田三吉名人杯将棋大会は新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止

評価対象	さかい利晶の杜管理運営事業
実施主体	指定管理者 (SAKAI 縁プロジェクト)、文化財課、堺市博物館
事業概要	本事業は、堺が生んだ茶の湯の大成者「千利休」と、日本近代文学を切り拓いた歌人「与謝野晶子」の生涯や人物像などを通じて、堺の歴史文化の魅力を発信する施設である「さかい利晶の杜」の管理運営を行うことを目的とする。
調査概要	日程：令和4年9月28日(水) 内容：さかい利晶の杜における呈茶体験、常設展(千利休茶の湯館、与謝野晶子記念館)、企画展「茶のうつわ—堺環濠都市遺跡から出土した名品—」の視察 場所：さかい利晶の杜
委員からの評価	<p><事業の評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● さかい利晶の杜の設置の目的として、①利休・晶子をテーマとする文化施設であるとともに②堺観光の窓口としての観光案内施設及び交通ターミナル機能などからなる文化観光拠点を形成する。③これらの施設を中核として、市内の集客資源等を結ぶ観光ネットワークを構築し、市内周遊への誘導を図ることで、都市魅力の向上及びまちのにぎわいの創出を図るという三点が謳われている。①は、建物1階が千利休茶の湯館、2階が与謝野晶子記念館となっておりそれぞれ工夫を凝らした構成が楽しめる文化施設だと言えよう。②も、3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の影響下、入口に来場者200万人の垂れ幕が掲げられているようにほぼ順調に来館者数が伸びている点、旧市街の中心であり多くの寺社・有名な菓子店・飲食店があり「スターバックスコーヒー」や「梅の花」が隣接し、郷愁を誘う市街電車が行きかう宿院という好立地を考えると、妥当であると思う。ただ、③は堺観光の振興という視点から重要と言えるが、視察した限りにおいては、他の名所・観光施設への紹介、周遊を促す機能が十分でないと感じられた。ガラス張りの外観もすばらしく、建物の内部も新しく清潔で観光誘客のポテンシャルは高いと言える魅力的な施設だけにぜひ観光ネットワークの中心としての役目も積極的に果たしてほしい。

- 堺観光の起爆剤としてフェニーチェ堺とともに期待された本施設だが、古墳群の世界遺産指定という絶好のチャンスがあったにもかかわらず、新型コロナウイルス感染症の流行という予期せぬ不運のため、来館者はここ2年、2万人強と頭打ちである。ようやく第7波も落ち着きつつあり、ウイズコロナ政策も相まって成果指標の98,000人とはいかないまでも本年後半から徐々に回復すると期待される。苦境の中、関係者のこれまでの地道な努力に敬意を表するとともに、なお一層創意工夫を重ねられることを期待している。
- 事前に訪れた人から茶室や立礼茶席での体験がとても良かったと聞いていた。まさにその通りで、さかい待庵での、そこに座することで得られる体感は格別のもので、解説を聞いてさらに深く知識を得ることができた。また、立礼茶席も丁寧な解説があり、イスとテーブルなので、年配の方や海外の方も気軽に体験できて非常に良い。与謝野晶子記念館は、本の装丁展示が非常に良くコレクションとしてもかなり貴重と言える。両施設ともにボランティアの説明がわかりやすく非常に楽しいので、解説があれば子どもでも興味を持ちやすい。企画展である出土した茶のうつわ展示は、押し器コンテストなどの工夫もある。入口の観光案内展示室の泉州堺絵図は年齢関係なく楽しく学べ、とても良い。まわりの庭園や雰囲気も非常に文化的である。
- 呈茶の際の情報提供の工夫（パンフレットの作成）や、企画展に関連する器の呈茶での活用などは、茶の湯文化の楽しみ方や普及のための工夫として評価できる。また、さかい待庵を、五感を通して体感することは、利休の美学を知るうえで、圧倒的な説得力を持つ経験になると感じた。さらに、環濠都市堺の文化や産業の姿をリアルに留める、出土品群としての茶器の展示も大変興味深いものであった。常設展示を中心とした、ボランティアガイドの方の解説も、よく練り上げられていた。一方、これらの事業の総合的な評価を行うにあたっては、さかい利晶の杜全体の方針に関する説明や、課題のとらえ方、それへの対応方策などについての説明がほしかった。
- 市内の学校との連携はもちろんのこと、アーツカウンシルや、フェニーチェ堺や、地域の文化会館等との連携も積極的に今後の事業展開に活かしていけるとよい。

<留意点>

- 評者は本施設訪問が3回目だったが、今回有難いことにボランティアガイドの方の説明を聞きながら見て回ることで、前回までと違い、展示内容や展示のねらいがはっきり理解できたと感じた。入館者にはできるだけガイドの方がついてほしいと思うゆえんである。訪問者によっては時間の制約等もあり、それが難しいことも分かるのだが、来訪者のニーズを的確に読み取り、できるだけ丁寧に対応してほしい。また、視察日は平日の昼過ぎであったが年配の団体客と思われる方が目立った。施設の性格上、どうしても年齢層が高くなることは仕方ないかもしれないが、ホームページを見るとイベント・企画面でそのような努力がされているようであり、市内小中学校からの茶の湯体験の受け入れも積極的に対応しているとのことで、今後も若い層に関心をもってもらう取組を継

	<p> 続いて進めていって欲しい。来館者数の上では、団体のツアー客の存在感が大きいので、大手旅行業者とのタイアップ案件もこれから充実する必要がある。さらに、評者のようなリピーターをいかに増やすかという観点も重要である。利休・晶子双方とも展示内容が前回と変わっていない印象を受けた。さまざまな制約はあるが、こまめに少しずつでも更新することも考慮すべきではないか。繰り返しになるが、本施設は立地条件でも内容的にも観光客にアピールする要素はたくさんあると思う。広報面（ホームページの充実はさすがであるが）や他の施設等との連携など、その強みをまだ生かし切れていない憾みがある。少しずつでも改善を重ねることで、令和6年度来館者目標の9.9万人達成も十分可能だと思われる。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他府県の方に『さかい利品の杜』を伝えると、必ず、「なぜ利休と晶子が一緒なのか？」と聞かれる。実際には1階と2階に別々に分かれていて、違和感はないので、施設の名前に問題があるのかもしれない。また、子どもたちが見た場合、展示が上の方にあるので見えづらい。利休のイメージなのか、暗い雰囲気はどう伝わるのか、懸念が残る。展示からは利休という人物はあまり伝わってこなかった。与謝野晶子の展示は、晶子の本の装丁展示以外は、ざっと紹介されているような印象のパネル展示で、じっくりと作品を味わうという場所がないため、文化・芸術という意味では、もっと作品自体鑑賞できる工夫がほしい。図書情報コーナーがあるようだが、別室でもあり、ただ本が並べてあるだけなので、鑑賞できる場ではない。晶子の生家も再現されているが文化的な事を学ぶには中途半端に思える。他の講座室は使われていなかったもので、2階が少し閑散としていた。土日には様々な講座が開かれているようなので、平日もこういった講座やワークショップを頻繁に開くか、貸し出し、常に使用されるよう努力が必要だ。入口の物販の場所が少し雑然としている。その割には、購買意欲がわからないので、もっと見せ方に工夫が必要だ。 ● 常設展示も企画展示も、大変クオリティが高いが、ベースとなる知識や教養がなければ容易に魅力を感じにくいのではないか。その課題をいかにクリアしていくかが、大きな改善点の一つであろう。先駆的な博物館では、子どもたちや外国人にも理解しやすい展示や解説の工夫が日々試みられるようになっている。こうした動向にアンテナを張って、あくまでもクオリティは高く、誰でも理解しやすく知的刺激と感動を呼び、記憶に残る展示等をめざしてほしい。
<p> 事業の重点的方向性への寄与 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 堺市民はもちろん堺を訪問する外国人も含めた観光客に、堺の魅力を伝える文化・観光施設として、本館はフェニーチェ堺とともに中核的な役割を担っている。予期せぬコロナ禍により、せっかくの魅力が十分に伝えられていないのは残念だが、本来持っている本施設のポテンシャルの高さを、関係部署が施設運営・企画構成・展示内容の工夫等さまざまな試みの実践でさらに磨いていくことが「多くの人に魅力を伝える」という重点的方向性により一層寄与する力になるだろう。 ● 復元茶室の見学や立礼茶席での体験型は、多くの人に文化的魅力が伝わるが、どちらも別料金の体験となるため、敬遠される場合を考えると、展示だけでは

魅力が薄い。そのため展示に至っては、ボランティアの解説に頼ることになる。知識あるボランティアを多く育てていくことが重要かと思う。全体的に年配の大人向けの印象が強いため、子ども、学生など様々な年齢が足を運び興味をもって学べる場所づくりを期待したい。また、一度利用した場合、再度足を運ぶかどうか懸念が残るため、そのための工夫が必要だ。

- 重点的方向性の「多くの人に魅力を伝える」に対して、「茶道」「利休」「環濠都市」「晶子」等々、多くの魅力的なコンテンツを有し、それらに関わるキーパーソンやサポーターの層も厚く、その意味で一定の役割を果たされていると思うが、今後の課題として、それらの魅力を、誰にどのように伝えていくのか。堺ならでは、さかい利晶の杜ならではのリソースを活かし、目的や対象によって、新たな方法論を切り開いていく段階を迎えているのではないか。

おわりに

今年度視察した各事業はそれぞれの重点的方向性に寄与する内容となっていたが、次年度以降に改善すべき課題もいくつか見受けられた。各重点的方向性の評価指標に対する審議会の主な意見は以下のとおりである。

(1) 重点的方向性1：文化芸術とともに生きる

「文化施設振興事業（東文化会館）」は、市民に文化芸術活動を行う機会を提供する取組であるだけでなく、コミュニティのつながりによる地域活性化を実現できるものといえ、「文化芸術とともに生きる」という方向性への寄与が認められる。

「指定管理者等の企画担当者等に向けた社会包摂型のワークショップ実践研修」については、各文化会館の企画担当者等が社会包摂をテーマにしたワークショップの実践方法を学ぶことにより、地域における文化芸術拠点の機能強化につながるものであり、同方向性への寄与が認められる。本事業については、各文化会館等の職員は有期雇用である場合が多いことから、研修で会得した知識・ノウハウをどのように引き継いでいくかが課題である。

(2) 重点的方向性2：文化芸術で子どもたちを育てる

「さかいミーツアート」、「アートスタートプログラム」は、子どもたちが実際に文化芸術に触れる貴重な機会を提供するだけでなく、子どもたちに向けたプログラムを実施するアーティストの育成にもつながっており、「文化芸術で子どもたちを育てる」という方向性に寄与するものである。次年度以降も同方向性の実現に向けてフェニーチェ堺等の市内文化施設へのインリーチの開拓を含めた多様なプログラムの追求と量的な拡大への努力が一層望まれる。そのためには、堺市文化振興財団が中心となって専門的なアートコーディネーターを育成する等、持続的・発展的な運営の仕組みを検討する必要がある。他方、事業への参加をきっかけとして生徒や児童が更に理解や経験を深めることを希望した場合、次のステップにどのようにつなげていくかについても今後一定の検討を要する。例えば、市内施設での事業一覧を学校園に配布する等、次のステップへのアプローチを保護者や子どもたちに提示することも有効であろう。

「文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）」は、ダンスに関心のある子どもたちにとって、目標となりさらにレベルアップを図る機会になることが期待できる事業である。より魅力的なものとなるよう事業内容を考えていく必要はあるもののダンスという文化芸術を通して子どもたちの育成に資するものであり、同方向性への寄与が認められる。

(3) 重点的方向性3：多くの人に魅力を伝える

「さかい利品の杜事業」は、与謝野晶子や千利休、環濠都市といった堺が有する多くの歴史文化資源の発信に加え、茶室見学や呈茶体験等の体験型のコンテンツを実施する等、堺の歴史文化資源の魅力を多様な方法でPRする事業であり、「多くの人に魅力を伝える」という方向性への合致が認められる。他方で、展示自体のクオリティは高いものの、展示位置や解説等については、子どもや外国人といった幅広い層へのアプローチという観点を踏まえると工夫の余地があるといえる。加えて、市内各地への誘導を図る中核施設としての機能強化については検討の余地がある。

また、施設の在り方についての検討委員会等、外部評価を取り入れる仕組みについても今後検討されたい。

以上の課題解決に向け、堺市、堺アーツカウンシル、公益財団法人堺市文化振興財団、市民、事業者等が相互に協力しつつ、より妥当性・有効性の認められる事業実施に向けて、また、第2期計画の目標達成に向けて、適切な事業目標、事業手法、事業のプログラム内容等を十分に検討の上、事業の見直しを進められたい。併せて、新型コロナウイルス蔓延の現状及び将来の収束が見込めない事態を踏まえた事業開発についても検討されたい。

(参考) 関係図

